

【巻頭言】

いま京都医療科学大学では ― 大学近況報告 ―

京都医療科学大学 学長 遠藤 啓吾



「京都医療科学大学学友だより」をいつも楽しく読ませてもらっています。第209号(平成25年10月10日発行)の計報欄に、3回生の本岡 代氏(兵庫支部)が109歳でお亡くなりになった、とのお知らせがありました。昭和4年5月に卒業された最高齢の卒業生でしたので、開学当時のことをお聞きしたかったような気がしています。同じ計報欄に載っている6名のうち、最も若い会員で80歳。最高齢が本岡氏の109歳。戦前の放射線診療の現場では、放射線被ばく管理も不十分だったでしょうし、かなりの線量を浴びた可能生もあったかもしれません。しかし、本学の卒業生はいずれも長生きされていることから、少なくとも仕事で放射線を浴び、寿命が短縮することは無いので、後輩も安心して仕事ができます。卒業生が病院で元気に活躍されている様子を見聞きすることは、後輩の学生にとって最も励み、勉強のしがいとなります。

大学の近況は「学友だより」にも詳しく掲載されています。2013年に新しく始まった事業のひとつが、元培科技大学(Yuanpei University、台湾新竹市)との交流、サマースクールへの学生派遣です。学生に同行された遠山景子先生が報告されているように、参加した5名の学生は皆、台湾の学生との交流や医療施設訪問など、大変楽しんできたようで、好評でした。2014年も引き続き行っていきます。

元培科技大学を創設されたのは、本学卒業生の蔡 炳坤氏(13回生)。奥様はご健在で、ご令嬢が現在理事長として活躍されており、立派な大きな大学に発展しています。蔡 炳坤氏は滝内政治郎先生を大変尊敬されており、元培科技大学構内には滝内先生の写真が飾られていました。

もうひとつの2013年の事業は、大学機関別評価を受けたことです。法律で7年に1回、外部から大学を評価してもらわなければならないことになっています。大学になってからは初めての外部評価で、提出した数多くの書類の審査と、実際に本学にお見えになる実地調査がありました。今年の2月初めに、その評価結果の通知がありましたが、幸い「合格」とのことで、ホッとしています。外部評価の報告書でも、「学友会は、診療放射線領域のノウハウを生かし、『施設別説明会』『就職相談会』を行うことで、学生をサポートしており、この活動は高い実績を挙げ、学生に対する職業人への成長におけるモチベーションの源泉となっている」と高く評価されています(原文のまま。これは公表されます)。

2014年からの事業として新校舎の建設を検討しています。新校舎には学生の憩いの場としてのカフェテリア、ロッカーや大講義室などを予定しています。まず新しい校舎の設計、次いで2015年に新しい校舎を建築できればよいと考えています。

少子高齢化で18歳人口は毎年減少しており、本学にとっても受験生の獲得はこれからますます厳しくなります。本学の特徴は、創立以来の長い伝統と立派な学友会の存在です。学友会の皆様におかれましては、これからも本学のためにご援助、ご協力をよろしく願います。

以上